

家庭（専門）

種 目	発行者の番号 略 称	教科書の記号 番 号	判 型	総ページ数	検 定 済 年
子どもの発達と保育	6 教図	家庭304	B5	154	平成25年
	7 実教	家庭311	B5	150	平成29年
フードデザイン	6 教図	家庭312	B5	274	平成29年
	7 実教	家庭313	B5	250	

※総ページ数は、目録に記載されている数

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

子どもの発達と保育		冊数	2冊
発行者の略称・ 教科書の番号	教図304 実教311		

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【家庭の目標】

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

【子どもの発達と保育の目標】

子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

【子どもの発達と保育の内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
(1) 子どもの発達の特性 ア 生涯発達における乳幼児期の意義 イ 発達と環境 ウ 発達観・児童観の変遷 (2) 子どもの発達過程 ア 身体発育と運動機能の発達 イ 認知機能の発達 ウ 情緒の発達 エ 人間関係の発達 (3) 子どもの生活 ア 乳幼児の生活の特徴と養護 イ 生活習慣の形成 ウ 乳幼児の健康管理と事故防止 (4) 子どもの保育 ア 保育の意義と目標 イ 保育の方法 ウ 保育の環境 (5) 子どもの福祉と子育て支援 ア 児童福祉の理念と関係法規・制度 イ 子育て支援	(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア 実際に子どもと触れ合う学習ができるよう、幼稚園や保育所、認定こども園及び地域の子育て支援関連施設などとの連携を十分に図ること。 (2) 内容の範囲や程度については、次の事項に配慮するものとする。 ア 内容の(1)のアについては、発達の概念や乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを扱うこと。イについては、心身の発達は子どもが主体的に環境にかかわることによって促されること、発達における個人差などを扱うこと。 イ 内容の(2)については、誕生から幼児期までの発達の時期における特徴を扱うこと。エについては、乳幼児期は、特に、基本的人間関係の樹立のために「愛着」が重要であることを具体的な事例を通して扱うこと。 ウ 内容の(3)のイについては、子どもの健康な生活に必要な食を営む力など基本的生活習慣の形成の基礎についても扱うこと。 エ 内容の(4)のアについては、乳幼児の発育・発達に応じた適切な保育の重要性を扱うこと。イについては、乳幼児の基本的要求や社会的要求に着目させ、心身の発達に応じた保育について具体的な事例を通して扱うこと。ウについては、保育環境としての家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園などの役割について扱うこと。 オ 内容の(5)のアについては、児童福祉に関する基本的な法規の目的と概要を扱うこと。イについては、子育て支援に関する社会的背景を取り上げ、子育て支援施策の概要を扱うこと。また、子どもの虐待とその予防などにも触れること。

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調 査 項 目		対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a	領域ごとのページ数及びその割合	教科の内容	ページ、%
b	子どもと触れ合う学習活動について取り上げているページ数	内容の取扱い	ページ

イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

b 子どもと触れ合う学習活動について取り上げている内容

<その他>

- * 防災や、自然災害の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）
- * 性差・家族に関する表現
- * オリンピック、パラリンピックの扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）

② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

- ・ 学習指導要領に、実際に子どもと触れ合う学習活動を通して、子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と実践的な態度を育てることとあることから、取り上げている内容について調査する。
- ・ 学習指導要領に、内容の範囲や程度等を示す事項は、当該科目を履修する全ての生徒に対して指導するものとする内容の範囲を示したものであり、学校において必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができるため、発展的な内容について取り上げている箇所について調査する。

- * 性差・家族に関する表現については、「東京都男女平等参画基本条例」に基づき、男女が互いの違いを認めつつ、個人として尊重される男女両性の本質的平等の理念を生徒に理解させ、その具現化を図るため、適正な男女平等教育を推進するという視点より、男女が家庭生活における活動に対等な立場で参画する観点や家庭観について取り上げられている内容について調査する。
- * 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。
- * 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

① 編集上の工夫

② 視覚的資料（写真、図、イラスト、グラフ、表など）

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】(子どもの発達と保育)

調査項目			a 各領域ごとのページ数及びその割合										b	
			① 子どもの 発達の 特性		② 子どもの 発達過 程		③ 子ども の生活		④ 子ども の保育		⑤ 子ども の福祉 と子育て 支援		子どもと 触れ合 う学習 活動に ついて のページ 数	
発行者	教科書番号	教科書名	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	(全体のページ数)
教図	304	子どもの発達と保育 育つ 育てる 育ち合う	16	10.2%	36	22.9%	50	31.8%	22	14.0%	11	7.0%	2	157
実教	311	子どもの発達と保育 新訂版	12	8.0%	36	24.0%	46	30.7%	22	14.7%	19	12.7%	10	150
平均値			14	9.1	36	23.5	48	31.3	22	14.3	15	9.8	6	

・aの各単元のページ数において、単元最初の扉ページがある場合にはそのページも含めている。また、割合については、全体のページ数に対する単元のページ数の割合を小数第2位を四捨五入して求めた値である。

・bは「日本調理、西洋料理、中国料理にテーブルセッティングやサービスの基本的な考え方及び方法についてとりあげているページ数」を数えた。

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 教図304】 (子どもの発達と保育)

調査項目	子どもの発達の特性	子どもの発達過程	子どもの生活	子どもの保育	子どもの福祉と子育て支援
b 子どもと触れ合う学習活動について取り上げている内容	なし	なし	なし	口絵⑥ 保育実習に行ってみよう 実習のまえに 子どもとかかわってみよう! 感想をまとめよう	なし

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 実教311】 (子どもの発達と保育)

調査項目	子どもの発達の特性	子どもの発達過程	子どもの生活	子どもの保育	子どもの福祉と子育て支援
b 子どもと触れ合う学習活動について取り上げている内容	なし	適切なかかわり方	Activity 身近なものを使って子どもの遊びにいかしてみよう	保育所や幼稚園などで子どもとふれあう	なし

記 述 の 内 容	
性 差 に 関 す る 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ・日本には、「三歳までは母親の手で育てないと、子どもの成長に悪い影響がでる」という「三歳児神話」が根強く残っている。 ・この研究は日本で、乳幼児には家庭での母親の愛情が不可欠である証拠とされた。 ・妊娠中の母親の健康や生活スタイルは胎児に影響し、ときに大きなリスクとなる。 ・生まれたばかりの赤ちゃんは、大人でいうと近視であるが、明るい方をじっと見たり、近くにある母親の顔が動く目で追ったりする。 ・この時期は思春期ともよばれる、性ホルモンの活動と関係して、性的な発達がおこり、第二次性徴と言われる身体的な男女差の特徴があらわれる（男性は筋肉質になり、ひげなどが生え、女性は脂肪がついて乳房が発達するなど）。 ・中絶は女性の心とからだに大きな傷を残す。相手のことを考え、尊重した上で正しい男女関係を築いていくことが大切である。 ・男性(父親)の長時間労働や家事・育児時間の少なさが女性(母親)の負担感を増長させている。 ・個人の希望する出産・子育てや、男性も女性も仕事と生活を調和させる社会（ワーク・ライフ・バランスの実現）は生活の安定の上にもこそ成り立つ。 ・図6「子育て世代の男性の長時間労働」 ・周囲に助けを求められればよいが、核家族化の中、それができず、育児不安や育児への負担感を覚える母親もいる。 ・最近では共働きを支えるべく育児休暇を取得し、積極的に子育てに参加する父親も増え、そうした男性をイクメンとよぶこともある。 ・子どもを受け入れて守る能力を母性、マナーやルールを教える能力を父性と呼ぶことがある。男性にも母性があり、女性にも父性があることから、男女問わず育児に適した傾向を育児性とよぶこともある。 ・COLUMNイクメンを目指す！ ・父親は、子どもの養育者のひとりであるが、日本では子育てを母親が担う割合が大変大きい。そのような状況が、母親の育児不安や不適切な養育に結びつくことも考えられる。父親が育児をすることによって、母親の肉体的、精神的な負担が軽減され、気持ちに余裕をもって子ども向き合えるようになる。 ・少し古い調査であるが、1985年に東京都中野区で行った教育・育児を両親のどちらが担当していたかと、子どもの幸福感との関係をみた調査によると、日本の家庭で多い「もっぱら母」に育てられた子どもたちの幸福感は低く、両親が同じくらい育児・教育にかかわったとしている子どもたちの幸福感は高いという結果が報告された。さらに子どもの世話をする父親のほうが、尊敬しているなど、頼りにしているなど、子どもからの評価も全体的に高いという結果である。 ・2009年に、働く男性も育児に参加しやすい環境を目指し育児・介護休業法が改正されたにもかかわらず、男性の育児休暇取得率が低い状況は変わらない。2010年6月、政府は、「イクメンプロジェクト」を発足させ、男性の育児参加を後押ししようとしている。 ・(グラフ) 男性の育児休業取得率 ・第1子出産後の女性の継続就業率 <p>・これによって表面化した、子育ての孤立化や母親の育児不安などの問題を解消するため、地域の中にさまざまな子育て支援の場がつけられている。</p> <p>・家庭的保育は、保育のひとつの形態であり、古くから保育ママなどの呼称で取り組まれてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは、父親が外で働き、子育てを母親ひとりが担う状況が一般的であった。 ・虐待を加えているのは、実母が最も多い。 ・母親からの子育ての負担を取り除き、楽しみながら育児ができるようにするために、市町村が主体となった子育ての相談援助体制（育児相談室、認可保育所や私立幼稚園で行う子ども巡回相談、子育てサロン、育児サークル）の整備や、子育て中の母親が必要に応じて自分の時間を作ることができる支援（ファミリー・サポート・センターなど）の充実が求められている。 ・父親の育児休業制度の取得率は非常に低い。父親の育児参加を促すためにも、育児休業期間に支給される給付金の充実が必要である。 ・男性も女性も仕事と生活が調和する社会へ（ワーク・ライフ・バランスの実現） ・口絵⑩私は、就職活動のときに「男性はいらない」と門前払いを受けることもありました。
家 族 に 関 す る 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化と少子化の進行により、保育所や幼稚園などは複数の同（異）年齢児が出会い、子ども自らが主体となって他の子どもたちとかわかり、仲間関係を築くことのできる、数少ない貴重な環境となっている。 ・大家族の生活の負担を減らすために、生まれたばかりの子どもをわざと殺さなければならないこともあった。 ・家族のあり方が大家族から夫婦と子どもの核家族へと変わっていった。 ・新生児期には専用のベビーバスを用いる。1ヵ月を過ぎたら、家庭の風呂の場合は家族と一緒に入浴してもよい。 ・子どもの基本的な生活習慣の習得には、家族や保育者の養護が必要である。 ・家族と並んで座り、自分で食べることを通して感じられる「一人前」の意識や、お手伝いを通した「家族の中で役立っている」という感覚が芽生えるのもこの幼児期である。 ・かつて、日本の食卓は家族がそろって絆を深める場であり、食事のマナーや偏食の改善などが日常的に行なわれていた。現在では、子どもをとりまく環境が変わり、家族がそろって食卓を囲む機会は減っている。 ・無理に急かしたり強制したりするのではなく、まずは空腹で食卓に向かえるようにし、家族が揃って食卓につき、食卓の近くに子どもの関心を引くようなものを置かないなど環境を整えて、けじめのある食生活を営んでいくことが望ましい。 ・出生率の低下（少子化）、核家族化の進展、都市化などにより、子どもと家族を取り巻く環境は大きく変化しており、子どもの健康について新たな問題がおこっている。 ・子どもの食生活を整えることは、同時に家族の食生活を見直す機会でもある。多様で不規則な生活リズムなどにより、家族の生活がずれ違いたからこそ、それぞれの家庭で可能な方法を探り、短時間であってもふれ合いのある食卓にしたい。 ・核家族化・共働き化が進む近年では、保育者にとっても子どもが「静かに見てくれている」という理由から、テレビやテレビゲーム、携帯ゲームが育児に欠かせないものとなってきている。 ・人はだれでも母親から生まれ、家族や周囲の大人に育てられながら人間として成長していく。 ・一方で、赤ちゃんの存在やその生命力は、母親や家族の育てる行為を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは、家族や地域の人などの身近な大人の温かな眼差しや見守りの中で、思う存分遊んだり、自信を持って自発的に行動することで、大きくなっていく。 ・ひとり暮らし世帯が増加して、夫婦と子からなる世帯を上回り、このため、人々のライフスタイルや家庭の風景も様変わりしてきている。 ・子どもは家庭に生まれ、家族の中で育つ。家庭は生活の場であり、くつろぎの場であり、親子が育ち合う場である。 ・核家族化が進み、近隣との関係が希薄な地域が増えている。 ・さらに近年では、子どもを取り巻く環境である家族や家庭、地域社会も含め、家庭福祉や地域福祉という観点から子どもの福祉がとらえられている。 ・さらに近年では、子どもを取り巻く環境である家族や家庭、地域社会も含め、家庭福祉や地域福祉という観点から子どもの福祉がとらえられている。 ・児童虐待の背景には、出産や育児に対する家族の無理解や、子どもの成長と子育て情報の不一致による育児不安など、さまざまな原因が考えられる。家族は親の相談相手になったり、積極的に家事を分担するなどのサポートをしていきたい。

記 述 の 内 容	
性差に関する表現	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものお祝いごと 初節句…女兒の場合は桃の節句、男児の場合は端午の節句に子どもの健やかな成長を願ってお祝いする。 七五三…男児は3歳と5歳、女兒は3歳と7歳に祝うことが多い。 ・父子手帳の広がり ・母親が一緒の時と乳児がひとりの時とで比較すると、母親と一緒にいるときに喃語数が多くなっており、身近な養育者の影響が大きいことがわかる。 ・子どもの精神的な健康と発達には特定の人（一般的には母親）との情緒的な結びつきが重要である。 ・おむつのあて方 女の子は後ろ、男の子は前を折り返して、おむつカバーと一緒にあてる。 ・DV被害者の多くは子の母であることが多い。母が暴力を受けているのを目撃することは子どもにとって苦痛であり、心身の発育にも悪影響を及ぼす恐れがある。 ・核家族化が進み、子育ての負担が両親、特に母親に大きくかかるが増えている。 ・男性は外で働き、女性は家族を守るという伝統的な考え方。 ・出産した女性の86.6%が取得しているのに対し、配偶者が出産した男性では、わずか2.3%しか取得していない。 ・母親に比べ、父親の取得率は極端に低い。 ・女性だけでなく、父親である男性が子育てや家事に参加できるような支援が必要である。
家族に関する表現	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に過ごす家族や親との間に愛着関係を形成することが大切である。 ・核家族化が進んでいる現代では、家族や知人以外の支援や親が安心して子どもを育てることができるような環境づくりが欠かせない。 ・核家族化や食の社会化により、家族の養育力や食に対する意識が低下している。 ・核家族化が進み、祖父母との同居が減っている。 ・新しい命を迎えると、さまざまな形の家族に新しい人間関係が展開していく。すでにきょうだいのいる家族に赤ちゃんを迎える場合もあれば、夫婦だけの家族に赤ちゃんを迎える場合もあるだろう。ひとり親での子育てが始まる場合も、生まれてすぐに大家族に囲まれる場合もある。このように家族に囲まれた家庭という場で親に保育されることを家庭保育という。

「別紙3」 【(2) 構成上の工夫】 (子どもの発達と保育)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
教図	304	子どもの発達と保育 育つ 育てる 育ち合う	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の説明、本文中のポイントとなる言葉が分かりやすく示されている。学習内容にあわせたCOLUMNが掲載されている。 ・写真、イラスト、図、表が多く、写真は子どもと大人の関わりを示す写真が多い。
実教	311	子どもの発達と保育 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に関する資料、Activity、単元の最後に学習内容に関連した資料としてCloseUpが掲載されている。学習のポイントとなる言葉や内容について関連資料が示されている。 ・写真、イラスト、図、表が多く、大きくカラーで示されている。

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

フードデザイン		冊数	2冊
発行者の略称・教科書の番号	教図312 実教313		

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【家庭の目標】

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、生活産業を取り巻く諸課題を主体的に、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

【フードデザインの目標】

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

【フードデザインの内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
(1) 健康と食生活 ア 食を取り巻く現状 イ 食事の意義と役割	(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア 内容の(4)のイについては、地域の関係機関等との連携を図ること。
(2) フードデザインの構成要素 ア 栄養 イ 食品 ウ 料理様式と献立 エ 調理 オ テーブルコーディネート	(2) 内容の範囲や程度については、次の事項に配慮するものとする。 ア 内容の(1)のアについては、健康、栄養状態、食事情、食の安全及び環境とのかかわりなどを扱うこと。イについては、食事の意義とおいしさ及び望ましい食習慣の形成並びに地域の食文化などを関連付けて扱うこと。
(3) フードデザイン実習 ア 食事テーマの設定と献立作成 イ 食品の選択と調理 ウ テーブルコーディネートとサービスの実習	イ 内容の(2)のオ及び(3)のウについては、日本料理、西洋料理と中国料理のテーブルセッティングやサービスの基本的な考え方及び方法を扱うとともに、食事のテーマにふさわしいテーブルコーディネートやサービスの基本的な考え方及び方法を扱うこと。
(4) 食育と食育推進活動 ア 食育の意義 イ 家庭や地域における食育推進活動	ウ 内容の(4)のアについては、食育を推進することの重要性について扱うこと。イについては、学校家庭クラブ活動などを通して食育を推進する活動を行うこと。

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目		対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a	各領域ごとのページ数及びその割合	教科の内容	ページ、%
b	日本料理、西洋料理、中国料理のテーブルセッティングやサービスの基本的な考え方及び方法について取り上げているページ数	内容の取扱い	ページ

イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

- b 日本料理、西洋料理、中国料理のテーブルセッティングやサービスの基本的な考え方及び方法について取り上げている内容

<その他>

- * 防災や、自然災害の扱い
- * 性差・家族に関する表現
- * オリンピック、パラリンピックの扱い（調査の結果、記載の無いことを確認した。）

② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

- ・ 学習指導要領に、日本料理、西洋料理、中国料理のテーブルセッティングやサービスの基本的な考え方及び方法について扱うこととあることから、取り上げている内容について調査する。
- * 性差・家族に関する表現については、「東京都男女平等参画基本条例」に基づき、男女が互いの違いを認めつつ、個人として尊重される男女両性の本質的平等の理念を生徒に理解させ、その具現化を図るため、適正な男女平等教育を推進するという視点より、男女が家庭生活における活動に対等な立場で参画する観点や家庭観について取り上げられている内容について調査する。
- * 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。
- * 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

- ① 編集上の工夫
- ② 視覚的資料（写真、図、イラスト、グラフ、表など）

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】(フードデザイン)

調査項目			a 各領域ごとのページ数及びその割合								b	
			① 健康と食生活		② フードデザインの構成要素		③ フードデザイン実習		④ 食育と食育推進活動		その他	
発行者	教科書番号	教科書名	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	(全体のページ数)
教図	312	フードデザインcooking&arrangement	18	6.7%	120	44.4%	98	36.3%	11	4.1%	38	270
実教	313	フードデザイン 新訂版	8	3.2%	128	51.2%	92	36.8%	5	2.0%	31	250

・aの各単元のページ数において、単元最初の扉ページがある場合にはそのページも含めている。また、割合については、全体のページ数に対する単元のページ数の割合を小数第2位を四捨五入して求めた値である。

・bの「日本調理、西洋料理、中国料理にテーブルセッティングやサービスの基本的な考え方及び方法についてとりあげているページ数」を数えた。

調査項目	日本料理	西洋料理	中国料理	その他の料理
<p>b 日本料理、西洋料理、中国料理のテーブルセッティングやサービスの基本的な考え方及び方法について取り上げている内容</p>	<p>第3章 調理と献立 4. 様式別の献立と調理・食卓作法 1 日本料理 ①日本料理の特徴 ②日本料理の献立 本膳料理 懐石料理 会席料理 4 各料理の食卓構成と作法 ①日本料理の食卓構成と作法 座席の決め方 食事の作法 図4 座席の決め方 図5 はしの持ち方 図6 はし使いのタブー 図7 椀の扱い方 伝統 知っておくと便利なマナー 表6 サービスの方法 6 テーブルコーディネート ②日本料理のテーブルコーディネート 1 春の食卓の工夫 2 夏の食卓の工夫 3 秋の食卓の工夫 4 冬の食卓の工夫 図8 春の食卓の例 図9 夏の食卓の例 図12 秋の食卓の例 図13 冬の食卓の例 表2 季節を連想させる色、植物の例 実習2 コーディネート小物を手作りしてみよう 和紙でつくるはし袋・はし置き 伝統的な食器からテーブルコーディネートを考えてみよう！</p> <p>第4章 調理実習 ①カフェメニュー・和風 おにぎりサンドと二色白玉団子</p> <p>コーディネートのコツを学ぼう ①盛りつけを工夫しよう！ ②器を工夫しよう！ ③コーディネートを工夫しよう！</p>	<p>第3章 調理と献立 4. 様式別の献立と調理・食卓作法 2 西洋料理 ①西洋料理の特徴 ②西洋料理の献立 正餐(ディナー)の献立 立食(ビュフェ)の献立 4 各料理の食卓構成と作法 ②西洋料理の食卓構成と作法 座席の決め方 食卓の整え方 食卓作法(テーブルマナー) 図8 座席の決め方 図9 西洋料理の食器の整え方 図10 西洋料理のマナー 表6 サービスの方法 図14 西洋料理におけるサービスの例 6 テーブルコーディネート ③西洋料理のテーブルコーディネート 1 食器 2 カトラリー類 3 グラス類 4 テーブルクロス、ナブキン 図14 食器の例 図15 カトラリー類の例 図16 グラス類の例 図17 クリスマスのコーディネート例 図18 パーティーのコーディネートの例 図19 ナブキンのたたみ方 実習1 コーディネートのコツを学ぼう フォーマルなコーディネートのコツ カジュアルなコーディネートのコツ 実習2 コーディネート小物を手作りしてみよう リバーシブルランチョンマット・コースター</p> <p>第4章 調理実習 ②カフェメニュー・洋風 ハンバーガーとスムージー</p> <p>コーディネートのコツを学ぼう ①盛りつけを工夫しよう！ ②器を工夫しよう！ ③コーディネートを工夫しよう！</p> <p>3行事食 誕生日のホームパーティー 5行事食 クリスマスの献立</p>	<p>第3章 調理と献立 4. 様式別の献立と調理・食卓作法 3 中国料理 ①中国料理の特徴 ②中国料理の献立 4 各料理の食卓構成と作法 ③中国料理の食卓構成と作法 座席の決め方 食卓の整え方 食卓作法 図11 座席の決め方 図12 中国料理の食器の整え方 図13 中国茶の飲み方 表6 サービスの方法</p>	<p>口絵 ・日本食を英語で紹介しよう ・世界の食べもの ・色を工夫したテーブルコーディネート ・季節の小物でテーブルを華やかに</p> <p>第3章 調理と献立 3 献立作成 盛りつけ 4 様式別の献立と調理・食卓作法 6 テーブルコーディネート ①楽しい食卓をつくろう 1 テーブルコーディネートとは 2 基本的な考え方 3 要素 図1 テーブルコーディネートの例 図2 食空間の演出 図3 部屋全体の調和 図4 蛍光灯の色による見え方の違い 図5 テーブルコーディネートのプランニング 表1 色の働き</p>

調査項目	日本料理	西洋料理	中国料理	その他の料理
<p>b 日本料理、西洋料理、中国料理のテーブルセッティングやサービスの基本的な考え方及び方法について取り上げている内容</p>	<p>口絵 和食の基本 献立のかたち 5章 料理様式とテーブルコーディネート 1料理様式と献立 1 日本料理の様式と献立 ①日本料理の特徴 ②日本料理の献立 本膳料理 懐石料理 会席料理 日本料理の特徴 図1 本膳(二汁五菜)の配膳例 図2 本膳料理形式による儀礼食の流れ例 図3 懐石料理の配膳と流れ ③日本料理の献立の手順 表1 会席料理の献立 ④サービスとマナー 座席の決め方とサービス 食事のマナー 日本料理の食事のマナー 図4 一汁三菜の配膳図例 2テーブルコーディネート 3 和風のテーブルコーディネート ①会席膳・折敷 ②食器類 ③はしとはし置き ④盛りつけ 図12 季節感と食卓の雰囲気(和風) 図13 折敷 図15 盛りつけの例 6章 フードデザイン実習 1 献立作成 実習14 敬老の日 テーブルコーディネートのポイント 実習16 正月料理 テーブルコーディネートのポイント 正月料理の盛りつけ方 皿などの盛りつけ 重づめ 実習17 桃の節句 テーブルコーディネートのポイント</p>	<p>5章 料理様式とテーブルコーディネート 1料理様式と献立 2 西洋料理の様式と献立 ①西洋料理の特徴 ②西洋料理の献立 正餐(ディナー)の献立 立食(ビュフェ)の献立 表2 正餐の献立 ③西洋料理の献立の手順 ④サービスとマナー 西洋料理の食事マナー 図5 食器の配置 2テーブルコーディネート 3 洋風のテーブルコーディネート ①テーブルクロスとナブキン ②センターピース ③食器類・グラスと盛りつけ ④カトラリー(cutlery)とフィギュア 図16 食卓の雰囲気(洋風) 図17 いろいろなランチョンマット 図20 フィギュア 6章 フードデザイン実習 1 献立作成 実習13 子どもの日 テーブルコーディネートのポイント 実習15 クリスマス料理 テーブルコーディネートのポイント 実習18 誕生日・ホームパーティー テーブルコーディネートのポイント</p>	<p>5章 料理様式とテーブルコーディネート 1料理様式と献立 3 中国料理の様式と献立 ①中国料理の特徴 北方系料理 南方系料理 上海系料理 四川系料理 中国料理の特徴 図6 中国料理の系統 ②中国料理の献立 図7 中国料理に用いる調理器具 表3 中国料理の種類 表4 中国料理の献立 ③サービスとマナー 中国料理の食事マナー 図8 食卓の整え方 2テーブルコーディネート 3 中国風のテーブルコーディネート ①食器類 ②はしとれんげ ③盛りつけ 図21 中国料理の食器類 図22 れんげ 図23 むき物細工</p>	<p>5章 料理様式とテーブルコーディネート 2テーブルコーディネート 1 テーブルコーディネートとは 図9 あなたはどちらの方法で食べるだろうか 図10 朝食(洋食、和食)のテーブルコーディネート 2 テーブルコーディネートのポイント テーブルコーディネート5つのポイント 図11 祖母の誕生日の祝い 6 室内のコーディネート ①明るさ ②音 ③香り ④配色 図24 照明の違いによる雰囲気の違い 実習1 テーブルの雰囲気に合わせてナブキンをたたんでみよう 実習2 身近な素材を利用してはし袋を折ってみよう 実習3 身近にある物をいかして、センターピースの花をいけてみよう 実習4 和洋リバーシブルのランチョンマットをつくってみよう 実習5 さまざまなコースターをつくってみよう 6章 フードデザイン実習 1 献立作成 4 テーマ設定と調理実習 テーブルコーディネート</p>

「別紙2-2」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 防災や、自然災害の扱い】（フードデザイン）

発行者	教科書 番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
教図	312	フードデザイン cooking&arrangement	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	本文	災害時の「食」について 考えてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えて備蓄しておきたい食に関する備え ・あると便利な食を支える備え ・家庭の備蓄を確認し、災害時の食について話し合う
実教	313	フードデザイン 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			

記 述 の 内 容

性差に関する表現

- ・特に若い女性にやせ願望を持つ人が多く、問題になっている。
- ・図1 朝食の欠食率(20歳以上)
- ・図2 肥満の者の割合(15歳以上)
- ・図3 体格別体重を減らそうとする者の割合(20歳以上)
- ・この時期のカルシウムの摂取不足は特に女性にとって生活習慣病のひとつである骨粗鬆症の原因になるおそれがある。
- ・図4 学童期から青年期におけるからだの発育
- ・男子は、筋肉が発達し、たくましいからだつきになる。女子は、皮下脂肪が増え、丸びを帯びたからだつきになる。
- ・男女は交互に並ぶようにし、主客の男性は必ず主婦の右側に、主客の婦人は招待側の主人の右である。
- ・近年では、20~30代女性において、食事の偏りや痩身(低体重)傾向が多くみられる。このような食習慣を続けていると、妊娠時に母子の健康を害する可能性がある。女性が安全に妊娠出産するために、妊産婦のための食生活指針が示されており、妊産婦に向けた講座を開催している地域もある。
- ・表4 妊産婦のための食生活指針

家族に関する表現

- ・家族そろった団らんのなかでの食事、親戚や友人が集まった楽しい食事により、精神的な充足感も得ている。しかし近年では、ライフスタイルの多様化により個人の生活パターンを重視する傾向にあり、家族で食事をする機会が減っている。
- ・図3 家族との供食に伴う利点 家族とコミュニケーション
- ・図4 家族と一緒に食事をする頻度
- ・家族の人数にあった適正な食事量をつくること
- ・家族や友達とは違いがあるだろうか。調べてみよう。
- ・食事を通して家族や友人との交流を図ることが大切である。
- ・家族が不機嫌で不満を言い合ったりしながらとる食事は楽しいとはいえない。家庭の食事で最も大切なことは、「楽しく食事すること」である。
- ・家族みんなが協力して、買い物、食事づくり、食事の後片づけなどをすれば、語らいがはずみ、家族のきずなはいっそう深められる。
- ・たんぱく質、カルシウム。食物繊維を十分にとり、家族そろって楽しく食事をしよう!
- ・4つの食品群、6つの食品群などの考え方があがる。これをもとにあなたの家族の1日に必要な食品の量を計算してみよう。
- ・家族の嗜好や特徴に合わせた献立を考えるようにする。嗜好については、家族全員の嗜好に合わせることは難しいが、なるべく個人の好みを入れるようにする。
- ・子どもが健やかな成長をとげ、家族が健康であるためには、安全で栄養のバランスがよい楽しい食事をとることが基本となる。
- ・家族の嗜好を考慮し、ライフステージの特徴に合わせた献立に工夫する。
- ・家族の食事摂取基準、食品群別摂取量のめやすを参考にする。
- ・ふだんの食事でも、家族の喜ぶ顔を思い浮かべて、楽しい食卓になるようにテーブルコーディネートをするれば、食生活はいっそう豊かなものになる。
- ・テーブルコーディネートとは、食卓に座る家族やお客様のことを中心に考えて食空間を演出することである。
- ・食卓を囲む家族の団らん
- ・家庭では、家族で食卓を囲む機会を増やし、子どもが食事の挨拶やマナーを身につけるような活動などが求められている。
- ・自分自身の家庭生活を見つめなおし、そこで見つかった「食生活」の問題について、家族の協力を得て解決できる方法を考えてみよう。

記述の内容

性差に関する表現

- ・高血糖、高血圧、脂質異常症などが合併したメタボリックシンドロームが強く疑われる者またはその予備軍は、40～74歳の男性2人に1人、女性の5人に1人となっている。
- ・朝食の欠食率の変化を見ると、男女ともに高くなる傾向にあったが、2013年には男13.2%、女9.9%とやや減少した。
- ・女子には太りたくないために欠食する者もある。
- ・図5 低体重 (BMI18.5未満) の女性の割合
- ・1970年代以降、経済の発展、女性の社会進出による生活スタイルの多様化などを背景とし、簡単に食べられるファーストフードやファミリーレストランが増加し、外食率が高まった。
- ・成長発育や妊娠時、青年期から成人の女子では、月経で鉄の要求量は増加する。
- ・からだのなかの水の割合は、高齢者に比べて乳児のほうが多く、また女性より男性の方が多い。女性はその分脂肪が多い。
- ・急激な身長発育と第二次性徴(男女の性的な特徴)が現れる時期である。
- ・男子は筋肉量や体重が増え、女子では脂肪が蓄積して、からだがまるみをおびてくる。
- ・図2 2身長・体重発育速度曲線
- ・女子では月経開始のため、鉄不足による貧血が多くなる。
- ・やせ願望やファッションなどから、無理なダイエットをして、必要以上に体重を減少させ、拒食症や思春期やせ症になる女子も見られる。
- ・女性では、成人期前半の妊娠・出産・授乳や、後半の閉経後の機能調節がうまくいなくなる(更年期障害)など、からだの諸器官に変化が見られる。
- ・妊婦の栄養状態は、胎児の発育に影響を与えるばかりではなく、妊婦自身の生命に危険をもたらすこともある。母と子の健康を保持・増進させるために、栄養上の注意が必要である。妊娠月数に対する体重増加量を適正に保ち、エネルギーの摂取が過剰にならないようにする。
- ・女性の社会進出

家族に関する表現

- ・最も小さい集団である家族では、食事を共にする共食を原則としてきた。家族で共に食事をとるなかで会話も生まれる。
- ・図1 家族での食事
- ・家族の構成員の生活スタイルが異なると、同じ時刻に家族と一緒に食事をするのが困難になり、子どもだけの食事や、一人で食事をする孤食が増加した(図7)。家族で食卓を囲んでもそれぞれ好みのものを食べることや、1種類の簡単な食事をとることを個食と呼ぶ場合もある。
- ・図7 世帯員全員が一緒に食事をした割合(3人以上世帯)
- ・偏食防止への工夫 ③家族で一緒に食べるようにする。
- ・高齢者をとりまく環境はさまざまで、からだの変化、経済状態、住宅環境、家族構成、社会とのつながりなど、個人差が大きい。
- ・ひとり暮らしの高齢者では、食欲の低下、欠食・少食・偏食などで栄養にかたよりが見られ、病気を起こしやすくなる。家族に高齢者がいる場合は、かみやすい工夫をしたり、できるだけ一緒に食事をして楽しい雰囲気をつくるなど、配慮したい。
- ・日常食は毎日の食事を通し、家族の健康維持・増進に大きな役割を持っている。家族に高齢者・青少年・乳幼児や妊産婦がいる場合には、調理法などに配慮する必要がある。
- ・栄養とし好・食費・調理作業効率・家族構成などを配慮し、日常食の献立を作成したい。
- ・献立は栄養素の摂取と共に、家族のし好に合ったものであることが望ましい。
- ・朝：昼：夕食の割合を0.7：1：1.3にすることが多いが、家族の生活環境や職業などによって異なる場合もある。
- ・し好については、家族全員がすべての料理に満足することは難しいので、それぞれの好みの品を入れるように工夫する。
- ・図1 各食事の特徴と留意点
- ・夕食 彩りや盛り付けを工夫し、家族と楽しい食事のひと時になるように努める。
- ・食費とはここでは食事全般にかかる費用のことで、家族の食品群別摂取量を基本として、市価により毎月算出する。
- ・家族の食事摂取基準を満たすために必要な食品など購入する費用は確保したい。
- ・家族のし好や栄養のバランス、調理法に適した安全な食品を選択するように努める。
- ・家族構成によって献立を変化させる必要がある。
- ・図4 家族構成によって献立作成の留意点
- ・買い物や家族の希望で献立を決める場合もある。
- ・年中行事以外の行事として、七五三・入学祝い・卒業祝い・法事などがある。これらは家族や親族、友人などみんなで祝ったり、故人をしのんだりしたいものである。
- ・家族の朝食と昼食に注目し、不足の栄養素を補うようにする。
- ・家族のし好を考慮し、その年代に合った献立に応用できるようにする。
- ・家族みんなの好き嫌いは 家族みんなの昼食は何だったのか。
- ・実習14 敬老の日 高齢者をねぎらう気持ちを、家族そろってのもてなしで表現してみよう。

「別紙3」 【(2) 構成上の工夫】 (フードデザイン)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
教図	312	フードデザインcooking&arrangement	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめに学習内容に関する問の記述があり、導入に適している。本文の内容や話題のトピックをコラムとして分かりやすく示したり、自分の立場に置き換えて考えるワーク、学習内容を深く学ぶ実験が掲載されている。 ・イラスト・写真が鮮明で見やすい。 ・調理実習の内容が家族の食事として、和・洋・中の献立を中心に単品を組み合わせたり、行事食などの応用例が掲載されている。
実教	313	フードデザイン 新訂	<ul style="list-style-type: none"> ・日常食の調理実習では、1つの献立が見開きになっている。手順にはイラストがあり、分かりやすい。単品やデザートも多く掲載されて、献立のアレンジの学習ができる。 ・口絵「日本の食文化と食育」で、説明文とともに写真が豊富に掲載されていて、分かりやすい。 ・イラスト・写真が豊富で見やすい。